法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

マス・メディアと意味の生産 : マレーシアにおけるジェンダー(下)

SAGARA, Go / ヨシムラ, マコ / サガラ, ゴウ / YOSHIMURA, Mako / 吉村, 真子 / 相良, 剛

(出版者 / Publisher)
法政大学社会学部学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
社会志林 / Hosei journal of sociology and social sciences
(巻 / Volume)
50
(号 / Number)
1
(開始ページ / Start Page)
24
(終了ページ / End Page)
56
(発行年 / Year)
2003-07
(URL)
https://doi.org/10.15002/00015258

マス・メディアと意味の生産：
マレーシアにおけるジェンダー（下）[1)]

吉村真子　　相良　剛[2)]

〈目次〉

はじめに
1　マス・メディア，ジェンダー，意味の生産
2　メディアにおける女性とジェンダー・イメージ
（1）　マレーシアにおける女性
（2）　メディアにおけるジェンダー・イメージ：マレーシアのケース
（a）　TV
（b）　映画　　（以上，第49巻第3号）
（c）　雑誌　　（以下，今号）
（d）　広告
3　マレーシアにおける新聞とジェンダー
（1）　マレーシアにおける新聞
（2）　新聞における女性の参加と経営
（3）「女性欄」
（4）　女性の活動に関する新聞報道
（5）　女性に関する記事の具体的ケース
（6）　新聞における女性の取り上げ方の問題
おわりに
注
英文目次と要約
謝辞
参考文献

2　メディアにおける女性とジェンダー・イメージ

（2）　メディアにおけるジェンダー・イメージ：マレーシアのケース

（c）　雑誌

1991年において，マレーシアで部数の多い雑誌上位10誌のうち7誌はマレー

表1　マレーシアの主要女性誌4誌の読者層の特徴（性別，年齢層，都市部・農村部）

雑誌タイトル	読者数（'000）	おもな読者層	刊行頻度	言語	性別（%）		年齢層（%）		都市部・農村部（%）	
					男性	女性	15－29歳	30歳以上	都市部	農村部
Wanita	616	主婦，母親	月刊	マレー語	17	83	59	41	46	54
Jelita	301	主婦，その他ホワイトカラー	月刊	マレー語	16	84	62	38	56	44
Keluarga	216	主婦，その他ホワイトカラー	月刊	マレー語	19	81	60	40	48	52
Feminine	159	主婦，母親，ブルーカラー	月刊	華語	23	77	60	40	73	27

出所：Adnan Hashim (1994), Table 7.2, pp. 83-84.

（ムラユ）語（マレーシア語）の雑誌であった。上位10誌のうち女性誌は4誌であり，それらは「*Wanita*」，「*Jelita*」，「*Keluarga*」（以上3誌，マレー語），「*Feminine*」（華語）である。その出版部数と読者層の特徴は，表1のとおりである。

読者層は，ほとんどが女性で（77－84%），29歳以下（59－62%）である。最も部数が多い雑誌は「*Wanita*」であり，出版部数61.6万部，読者はおもに主婦と母親である。「*Jelita*」の出版部数は30.1万部であり，読者のほとんどはホワイトカラーの女性や主婦である。読者層の違いは，年齢層や地域の特徴にも表れている。「*Jelita*」の読者層は比較的若く，62%が15－29歳である。他方，「*Wanita*」の読者層は59%が15－29歳であり，都市部がやや多い（56%）。一般的に，農村部にはマレー系が多数暮らしているために，マレー語の雑誌は農村部にも読者が多く（44－54%），華人は都市部に集中しているために，華語（中国語）の「*Feminine*」はその読者のほとんどが都市部（73%）に住んでいる。

女性誌の中心的な記事はファッション，化粧品，料理，芸能などであり，紙面もとても色鮮やかで，デザインも派手でおしゃれなものが多い。もちろん，現在の社会問題や，社会で活躍する女性を扱う記事がないわけではないが，依然として，ファッションなど典型的なものがほとんどを占めており，恋愛や男性とのいい付き合い方といった記事もよく見られる。また，本文の記事以外にも，ファッションや化粧品などの広告や販売促進のページが雑誌の多くを占めている。

ペナン消費者協会（The Consumers' Association of Penang：CAP）は，1981年と1997年に女性雑誌の広告について調査をしている（CAP, 1982：46-52; Mary

Assunta Kolandai and Mohd Azmi Abdul Hamid, 1997)。

1981年の調査によると，「*Her World*」（英語誌）1981年9月号は，全148ページのうち54%にあたる81ページが広告であった。また「*Female*」（英語誌）1981年9月号は，144ページの34%が広告であった。それらの雑誌に比べて，マレー語の雑誌は広告が少なく，「*Keluarga*」1981年5月号は全94ページのうち広告は19ページだけで，「*Jelita*」も全96ページのうち広告ページは21ページだけだった。しかしながら，「*Wanita*」1981年9月号は全104ページのうち広告は36ページであり，35%を占めている。

1997年の調査では，女性雑誌の広告はさらに増えている。平均して，「*Her World*」，「*Female*」，「*Wanita*」の40%が広告であり，そのほかにも20%が販売促進のプロモーションのページとなっている。英語誌「*Her World*」と「*Female*」の総ページ数の67%，マレー語誌の「*Wanita*」と「*Jelita*」の総ページ数の50%が，広告や食品やサーヴィスのプロモーションのページであった。広告のうち多かったのは，化粧品（32－52%）とファッション（19－66%），そして美容関連の商品やサーヴィスである。

広告以外での記事では，恋愛や美容・外見なども多い。たとえば「*Her World*」1997年10月号で，広告やプロモーション以外の最初のページは目次・編集特記（editorial）であるが，それでも香水，化粧品，ファッション衣料の広告が17ページ続いたのちに，初めて出てくるのである。そして，最初の記事が載っているのは66ページ目である。

しかも興味深いことに，右側には広告のページが続き，記事は左側に配置されている。「*Female*」1997年10月号も同様で，目次・編集特記は20ページ目で左側，その後の初めの記事は52ページ目で左側である。記事は雑誌の主要部分であるはずだが，どれも短いものに過ぎない。

雑誌は，広告収入に大きく依存している。マレー語の雑誌は購読者が多いにもかかわらず，英語雑誌や華語雑誌に比べると広告収入は少ない。このことに関しては，英語雑誌や華語雑誌のスタッフの方が営業も巧みで，広告を積極的に集めているからという指摘もある（Adnan Hashim, 1994:81)。また，英語誌や華語誌の読者層の方が購買力があるだろう。しかし，それは，マレー系の購買力がおしなべて低いということを意味するものではない。マレー系の高所得層や購買力のある中間層などはマレー語を使うと同時に英語も使っており，英語メディアを好む傾向もあるからだ。

ほかにも，マレーシアの女性誌の特徴として，マレー語の女性誌ではマレー系の衣服やマレー料理の作り方など，民族色がよく出ており，ムスリムの読者層を意識して肌の露出の多い服なども英語誌に比べて少ないことも指摘できる。

（d） 広告

広告における女性の描かれ方は，社会における女性のイメージを形作る。

マレーシアの広告に見られる女性のイメージは，専業主婦をはじめとして母親や妻といったものと，プロのモデルのような美しい若い女性といったものとのふたつに大別される。

商品にもよるが，広告において示される典型的な女性のイメージのひとつが，家庭やキッチンの母親や妻のイメージである。これは，家庭用品，洗剤，食品，電化製品などの広告に多く見られる。そしてもうひとつのイメージは，女性にとって夢や理想とされるようなプロのモデルのような美しいスリムな女性である。この場合，どちらかというと，おしゃれや外見のことだけ考えて，男性の視線ばかりを気にするような，頭は空っぽというタイプとして描かれることが多い。このタイプは化粧品や服などの広告で見られる。しかしながら，最近では，働く女性が登場することも多くなった。しかし，これもまたステレオタイプの描かれ方である。たとえば，黒いパンツスーツを着た，ショートヘアの女性エグゼクティブが，オフィスで男性と仕事をしているといったものである（Mary Assunta Kolandai and Mohd Azmi Abdul Hamid, 1997）。専門職の若い女性が，整った身なりで，男性の同僚や友人たちとともに町に（街角，カフェなど）いる，といったものもある。

女性を描いた広告の中でも，性差別的なものは，女性を性の対象物として扱い，性の商品化，女性の身体の商品化，もしくはメディアにおける女性の虐待として指摘できる。とくにそうした傾向が強いのは，アルコール飲料，エステや痩身，香水，ファッションやカレンダーなどである。

マレーシアの女性をモデルに使った「セクシーな」広告の典型例は，ビールの広告である。ビールの広告ポスターは，肌を露出したセクシーな若い女性モデルのものが多く，マレーシア各地（イスラム政党が州政府を担っている東海岸の州を除く）のコーヒー・ショップやリカー・ショップの壁に貼ってある。また映画館で，本編の前に上映されるコマーシャル・フィルムの中でも，ビールのコマーシャル・フィルムは制作費もかかったムードのあるものが多く，つねにセクシーな衣装の魅力的な女性が登場し，セクシーさとゴージャスな雰囲気を前面に押し出した男性向けの

コマーシャルとなっている。TV では酒類の広告が禁じられているため，映画館での広告は，酒会社にとって有効で人気のある宣伝方法である。

こうした広告のなかには，女性団体や消費者団体，メディアに批判され，取りやめになったものもある。

有名なケースとして，Bufori のコマーシャルがある。Bufori はマレーシア初のスポーツカーとして，1995 年初めに非常にセクシーな広告で宣伝された。その広告は，結婚相談所に来た三人の女性が理想の夫について語るのだが，最後に一番きれいな女性が「仕事も外見もどうでもいいわ。Bufori をもっているなら，私は彼のものよ」と言うのである。英語新聞三紙とマレー語新聞一紙がこのコマーシャルについて取り上げ，女性からのみならず，抗議の声が上がり，結局，このコマーシャルは中止されることになった（Aishah Ali, 1997)。また，テキーラの「撃って，なめて，しゃぶって（'shoot, lick and suck'）」というプロモーションも，ディスコティークやパブで展開されたが，一般からの批判もあって，メディアでも議論となった。

消費者団体や NGO が，広告をモニタリングして，中止させたケースもある。いくつかの例を挙げるならば，パナソニックのラジオのコマーシャルやシトロエンの TV のコマーシャルがある。ペナン消費者協会（CAP）は，マス・メディアの広告をチェックし，倫理に反する，性差別的あるいは誤解を与えるような広告については，その理由を添えて，関係当局に対して指摘している。印刷メディアの広告は内務省（Ministry of Home Affairs）と ASA，TV については RTM（Radio Televisyen Malaysia）が管轄官庁である。(Mary Assunta Kolandai and Mohd Azmi Abdul Hamid, 1997)。

また企業カレンダーのなかには，女性をセックスの対象物として描いているものもある。たとえば，1980 年代のウィンストンやアンカー・ビール，IAD (Industrial Agricultural Distribution)，シッソンズ・ペイントなどの企業カレンダーは，露出の多い服を着た女性がしどけないポーズをとっているものである (CAP, 1982 : 7-10; CAP, 1986 : 78)。

独立記念日（ムルデカ，8 月 31 日）やハリラヤ（イスラムの断食明け），中国正月などの祝祭日に合わせたコマーシャルは，家族や伝統的行事の典型的な場面を使っている。そうしたものでは，家族や伝統の価値が強調される。男性がリードし，女性はやさしい祖母や準備を進める主婦や母親として描かれる。

2000 年と 2001 年の独立記念日向けの企業コマーシャルでもっとも印象的だった

ものは，インド系の男性が，まだ幼かった1957年8月31日の独立の日，父親に連れられてスタディアムで独立宣言を聞いたことを思い出すというものであった[3]。2001年の独立記念日のコマーシャルでは，国旗を持って走る男性を，ほかの女性たちが見ている，といったTVコマーシャルもあった。いずれも，企業のイメージアップに効果的な，印象的な独立記念日のコマーシャルだが，フェミニスト的な観点からいうならば，歴史的イヴエントや行事の中心は男性と位置付けられて描かれており，女性は脇役に過ぎない。

3　マレーシアにおける新聞とジェンダー

（1）　マレーシアにおける新聞

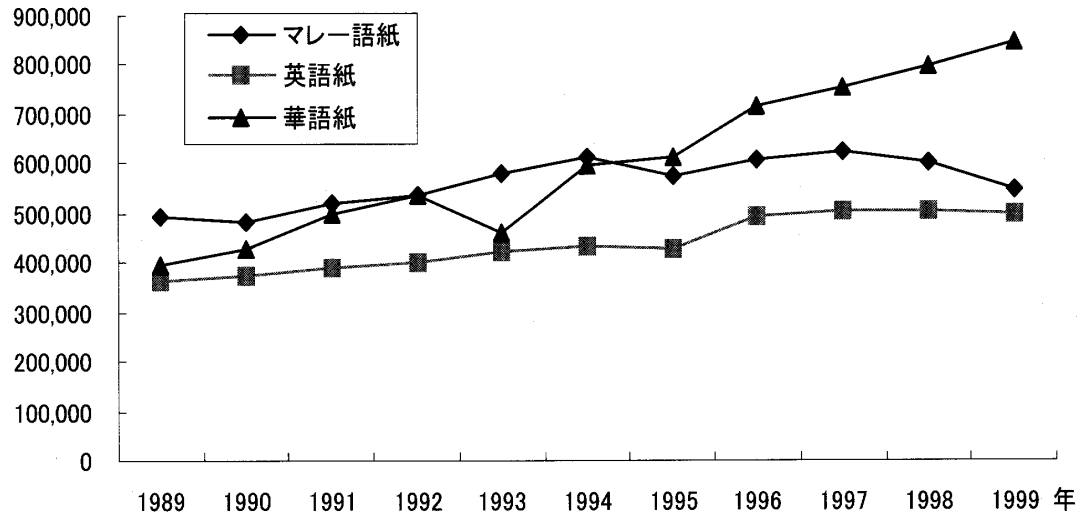
マレーシアには，マレー（ムラユ）語（マレーシア語），華語（中国語），英語，タミル語の四カ国語の日刊紙がある。

このうち，もっとも長い歴史を持つのは英語紙であり，社会に対する影響力も大きい。マレーシア初の新聞はイギリスの植民地下のシンガポールで1845年に発行

表2　マレーシアの日刊紙（言語別），1999年

新　聞　名	部　数
[英語日刊紙]	
The Star	235,641
New Straits Times	139,001
The Sun	82,474
The Malay Mail	41,420
小計	498,536
[マレー語日刊紙]	
Utusan Malaysia	247,617
Berita Harian	227,181
Harian Metro	63,770
Utusan Melayu	7,715
小計	546,283
[華語日刊紙]	
星洲日報 Sin Chew Jit Poh	289,514
中國報 China Press	204,225
南洋商報 Nanyang Siang Pau	177,824
光明日報 Guang Ming Daily	100,475
光華日報 Kwong Wah Yit Poh & Penang Sin Poe	72,158
小計	554,682

出所：*Press Guide: Press Information Guide Book, various issues.*



出所：*Press Guide: Press Information Guide Book, various issues.*

図1　マレーシアの新聞発行部数の変化，1989－1999年

が始まった「*Straits Times*」紙であり，同紙はその後，クアラ・ルンプル発行の「*New Straits Times*」紙となった。マレー語の新聞は，マレー系の識字率や教育水準が向上した戦後に急速に発展した。1980年代半ばまでにマレー語の新聞の発行部数は英語紙の発行部数を超えるまでになった。現在のマレーシアの日刊紙の発行部数は表2のとおりである。

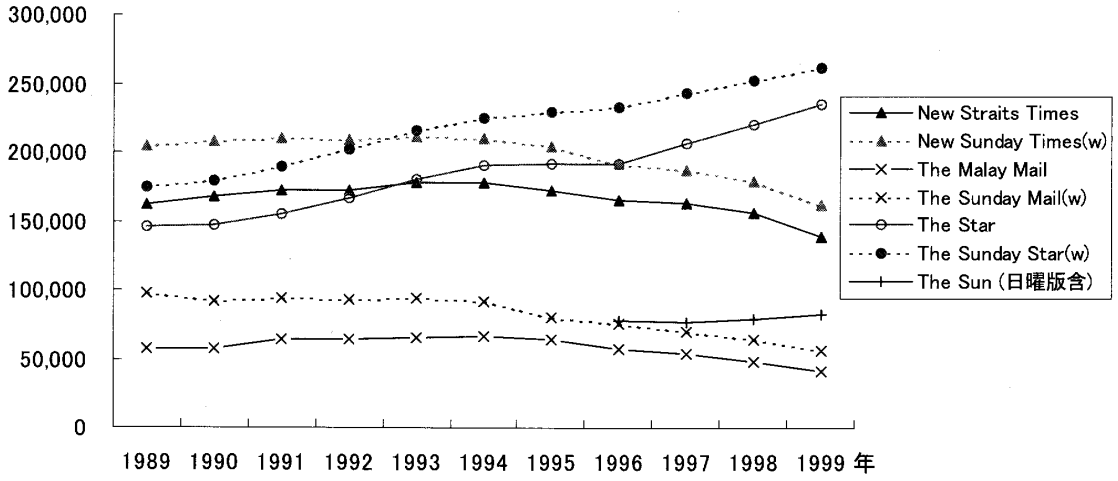
発行部数は，1995年に華語紙がマレー語紙を抜いて以来，(1) 華語紙（85万部），(2) マレー語紙（55万部），(3) 英語紙（50万部），(4) タミル語紙である（図1。カッコ内は1999年の部数データ）。

以下それぞれの言語の日刊紙を概観する。

（a） 英語紙

英語の日刊紙は4紙である。部数が多い順に「*The Star*」，「*New Straits Times*」，「*The Sun*」，「*The Malay Mail*」である。読者層はマレー系，中国系，インド系の英語識字層であり，政・官・財界の上層部にも多くの読者がいる。

タブロイド版の「*The Star*」は，1971年に設立され，発行部数は235,641部（1999年。以下同）で，英語紙としては最大部数を誇る。同紙は，与党連合の華人系政党MCA（Malaysian Chinese Association）の影響下にあるとされ，政府に近い関係にあるが，必ずしも政府を支持するとは限らない。全般に，華人の利害に敏感とされ，中間層の興味・関心を反映した紙面づくりも特徴である。ときとして



注：(w)＝日曜版
出所：*Press Guide: Press Information Guide Book, various issues.*

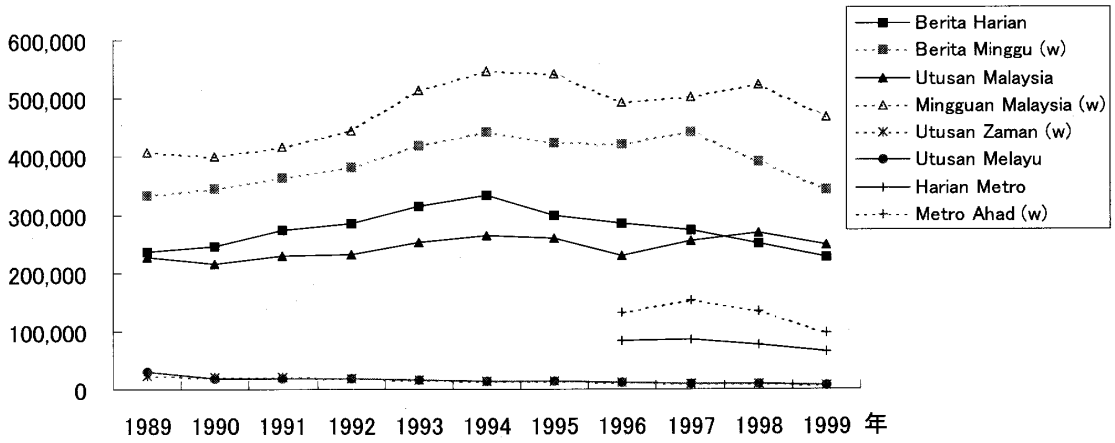
図2　マレーシアの英語紙の発行部数，1989-1999年

政府に対して批判的な議論もおこなうが，1987年，華語を上手に操れないマレー系の人物が華人学校の校長に任命されたときに政府を批判し，華語紙の星洲日報とともに発行停止の処分を受けて以降は，目立った政府批判は見られない（Heuvel and Dennis, 1993 : 155）。

「*New Straits Times*」は，マレーシアの新聞としてもっとも長い歴史を持つ，発行部数139,001のブロードシート紙である。イギリス植民地時代に発行された「*Straits Times*」から，シンガポールのマレーシアからの分離独立と同時の1965年に分離して，「*New Straits Times*」としてマレーシアで発行されるようになった。同紙は，連立与党のマレー系政党UMNOの所有でもあり，体制の支配階級の新聞と見られている。近年，「*New Straits Times*」の部数は急速に減少しており，1993年に「*The Star*」に首位の座を明け渡して以来，その差は開く一方である（図2）。同紙は，政府支持の論調が明確であり，その発行部数は，マレーシアの体制への反発が出てくるにしたがって，減少しているという指摘もある。

「*The Sun*」は，1991年に設立され，1996年に発行を始めた，英語日刊紙のなかで一番新しい新聞である。創刊に当たっては，マレーシアの有名なコメディアンであるハリス・イスカンダー（Harith Iskander）[4] 出演のTVコマーシャルを頻繁に流すなど，派手なキャンペーンを展開して，話題となった。最近も，新聞の定期購読の割引が定着していないマレーシアで，半年間の定期購読で大幅な割引サーヴィスを行うなどのキャンペーンで，読者を獲得している。

「*The Malay Mail*」は，英語のタブロイド紙で，第一面に若い女性の写真が載



注：(w)＝日曜版
出所：*Press Guide: Press Information Guide Book, various issues.*

図3　マレーシアのマレー語紙の発行部数，1989-1999年

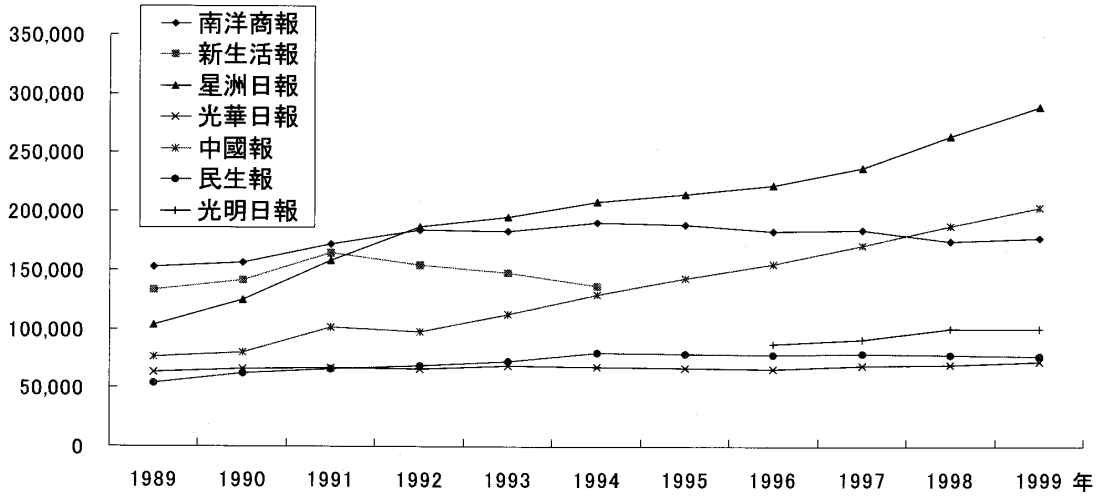
っていたり，記事も芸能ニュースや有名人のゴシップなどやわらかい話題が多いのが特徴である。同紙は，New Straits Times Sdn. Bhd. 社グループが発行元である。

（b）　マレー語紙

マレー語の日刊紙は全部で4紙である。部数が多い順に「*Utusan Malaysia*」，「*Berita Harian*」，「*Harian Metro*」，「*Utusan Melayu*」である。マレー語紙の読者のほとんどがマレー系である。マレー語紙は，全般に保守的で，政府寄りもしくはマレー系の政府与党UMNOの主張に沿う形での論調が多いとされる。

マレー語紙のなかでおもな新聞は「*Utusan Malaysia*」と「*Berita Harian*」である。「*Utusan Malaysia*」は，政府寄りで，マレー語の使用を主張している。マハティール・ビン・モハメド首相がインドネシアでのインタヴューで英語を話した際には，そのことを批判した。「*Berita Harian*」はNew Straits Times Sdn. Bhd. 社の発行であり，与党UMNOおよび政府の影響下にある。「*Harian Metro*」は，都市部向けの午後紙（夕刊紙）で，Berita Harian Sdn. Bhd. の所有である。「*Utusan Melayu*」は，ジャウィ（アラビア文字表記）の新聞で，読者は限られる。同紙は「*Utusan Malaysia*」と同じ発行元であるUtusan Melayu Bhd. 社から発行されており，記事の内容も似かよっている。「*Berita Harian*」はかつてはマレー語紙の売り上げで第一位であったが，部数は減少傾向にあり，1998年に，それまで長年にわたり保ってきた首位の座を「*Utusan Malaysia*」に明け渡した（図3）。

マレー語紙は，与党関連会社によって所有されるなど，概して政府・与党の強い



注：「新生活報」と「光明日報」は隔週刊。
出所：*Press Guide: Press Information Guide Book, various issues.*

図4　マレーシアの華語紙の発行部数，1989-1999年

影響を受けている。

（c）　華語（中国語）日刊紙

華語の日刊紙でおもなものは5紙である。部数が多い順に「星洲日報（*Sin Chew Jit Poh*）」，「中國報（*China Press*）」，「南洋商報（*Nanyang Siang Pau*）」，「光明日報（*Guan Ming Daily*）」，「光華日報（*Kwong Wah Yit Poh & Penang Sin Poe*）」である。南洋商報は1990年代始めには部数首位であったが，その後まず星洲日報，次いで中國報に抜かれ現在は3位となっている（図4）。

華語の日刊紙は，四言語の日刊紙のなかで最大の部数を持つとはいえ，読者は中国語を読める華人である。マレーシアの華人の場合，若い世代はたとえ中国語（それぞれの方言）が話せたとしても，華人学校に行っていなければ，中国語の読み書きはできない場合が多い。華人であるからといって華語新聞が読めるわけではないし，若い世代ほど，英語紙の方がなじみやすいため，読者層は限られるのである。そのためか，従来はマレー語紙や英語紙に比べて政府の検閲もゆるく，比較的自由な言論活動が黙認されていたとされる（Heuvel and Denniss, 1993）。しかしながら，1999年総選挙で，従来マレー系を支持基盤に圧勝してきた与党連合が，マレー系の票を他の政党に奪われるなかで，華人の支持により勝利して以降，政府のメディア対策の対象として重視されつつあるようである。2001年6月には，南洋商報と中國報の二紙を発行している南洋商報社を与党連合の一翼を担うMCAが買収するという出来事があった。MCAは，この買収はあくまでも投資が目的であり，

政治的意図や規制のためではないと主張し，MCA から南洋商報に新しく派遣された洪松堅・編集長代理も「編集方針が変わるわけではない」と述べている（朝日新聞 2001 年 8 月 10 日）。また，この買収については当の MCA 内でも強い異論があった。そうした状況で，買収後，同二紙の売り上げは急速に落ち込み，広告収入も激減した。

（d） タミル語紙

いずれも小規模で，各新聞社の自称以外の正確な部数データは得られない。代表的なものに「*Malaysia Nanban*」（52,000 部），「*THINA MURASU*」（45,000 部），「*Tamil Nesan*」（35,000 部）などがあり，クアラ・ルンプルで発行されている。内容は，インド本国のニュースも含めて，インド系社会が関心を持ちそうな話題が中心であり，マレーシアの新聞としての性格は弱い（Heuvel and Dennis, 1993）。しかしながら，インド系社会においても，若い世代はタミル語の読み書きも含めて，タミル語メディアに対するなじみは薄く，読者層は限られている。

（2） 新聞における女性の参加と経営

報道において，女性のジャーナリストにあたらせることは，ジェンダー・バイアスを避ける効果的な対策のひとつである。マレーシアの新聞では多くの女性のジャーナリストが働いており，男性と対等かそれ以上に活躍している。女性のジャーナリストは，女性であるからということで差別的な待遇は受けないが，経営のトップには就いていない。

マレーシアの代表的な英語の日刊新聞である「*The Star*」は，女性記者も多く雇用しており，経営の上層部にも女性がいる。

同新聞社の編集部には 358 名の記者と 61 名のフォトグラファー（写真撮影スタッフ）がいるが，そのうち 161 名が女性である。編集部のトップにあたる編集主幹は Ng Poh Tip 氏という女性である。日曜紙の編集長，副編集長，地域の編集デスク，スポーツ欄の編集デスク，局長も女性である。女性スタッフは，編集委員，二つのセクションの編集デスク，日曜紙の特集記事の編集デスク，何人かの副編集デスク，地方の支局（スレンバン支局）の特派員，ほかにも資料室スタッフ，事務の長，編集トレーナーなどに就いている（Ng Poh Tip, 1997）。

Ng Poh Tip 氏のケースは有名である。彼女は，「*The Star*」に 20 年以上前に副編集デスクとして入り，地方版編集長，副編集長を経て，編集主幹となっている。

彼女は，有能なジャーナリストであり，ジャーナリズムにおける女性の活躍や，新聞社による女性の積極的な起用をよく示している。

マレーシアの代表的な華語の日刊新聞も編集主幹に女性をつけている。全般に，マレー語の新聞社にくらべて，英語や華語の新聞社のほうが多くの女性記者を雇っている。

ある報道関係の重役は，女性に対する障壁はとくになく，トップにのぼることは可能であり，近い将来，女性の重役が出現しても不思議はないと述べているが，記者として働く限りは男女平等であっても，経営の上層部に入るには，ほかの分野と同様に「ガラスの天井」があるといえよう。実際には，経営面や所有の面では男性が占めているのである。

このように，経営と制作の面では男性が占めているが，編集の面では女性も多い。しかしながら，取材・編集の面で見ると，女性は，経済や政治といった「堅い」ニュースに比べて，文化・芸能，家庭や一般のニュースなどの「ソフトな」ニュースに当てられる傾向がある（Rahmah Hashim dan Fuziah Kartini Hassan Basri, 1996 : vii dan Jadual 10-11, h. 19-20）。

また，勤務については，新聞記者の仕事はタフで不規則である。女性の記者を使うには，育児所やフレックスタイムなどの仕事の支援が不可欠である（Aishah Ali, 1997）。

新聞関係の労働組合には，全国ジャーナリスト組合（the National Union of Journalists）と全国新聞組合（the National Union of Newspapers）があり，おもに男性が運営している。

女性の参加が，報道におけるジェンダー・バイアスの改善に効果的であることは，取材，編集，制作の各面でいえることである。モーターバイクに乗る女性の記事で，男性の記者が「スカート車輪に乗る（'Skirt on Wheels'）」とタイトルを付けたのを，女性の同僚記者が性差別的だと指摘してタイトルを変えさせたケースもあった。

さらには，マスコミ企業が，スタッフの研修においてジェンダー教育を含めることも重要である。「*New Straits Times*」社は，新入社員の研修プログラムにジェンダーや女性問題も対象として含めている。

（3）「女性欄」

新聞の女性欄は，家事や家庭関連の料理，裁縫，インテリア，ファッション，家

族，育児など，女性向けとされるトピックを従来から扱っている。最近は，女性の仕事やキャリア，政治やビジネスなど各分野で活躍する女性を取り上げることも多い。

女性欄の存在自体については，賛否両論ある。否定的な見解のおもなものは，家庭や家事に関係する女性欄の伝統的なトピックは，女性の家庭における二次的な役割や生活を固定化する役割を果たすことになる，というものである。また，どんなに女性が成功しても，結局は女性欄の話題にしかならないことにもなる。そうなると，女性が何をしても，その実績は「一主婦や一母親にくらべて上」だということにしかならないのかもしれない。

他方，女性欄を擁護する意見もある。新聞は一般に男性の話題で埋まりかねないが，女性欄のおかげで，女性問題を議論する場所が確保されている。そして内容も，短く触れるだけでなく，じっくりと議論することができるというのである。しかし，その場合でも，ジェンダーに関するきちんとした見方や方針を持つことが必要である。

女性欄は，1980年代後半から目に見えて変化し，新聞において女性問題が社会問題として取り上げられるようになっていくなかで大きな役割を果たした。

とくに中間層の台頭は紙面に大きな変化をもたらした。購読者における中間層の増加や購読者としての中間層の想定は，新聞における社会問題の取り上げ方に影響を及ぼしたのである。そして，1991年以降，新聞でカラー写真が使われるようになり，英語紙は新しいセクションを始めた。「*New Straits Times*」は「Lifestyle」，「*The Star*」は「Section 2」というセクションを新設し，よい暮らしや文化・芸術，環境問題，女性問題，レジャー，芸能などの記事を扱っている。社会の変化や読者の関心の変化が，こうした新聞の提示の仕方を変えたのである。

「*New Straits Times*」では，「Lifestyle」は女性問題デスク（a Women's Desk）の下におかれている。8ページ建てのこのセクションは，月曜日，木曜日，土曜日に出されている。女性問題デスクは女性3人と男性1人の計4人のスタッフを抱えている。

「*New Straits Times*」は，長年，女性問題デスクを置いている。1970年代に，女性問題デスクは，ファッション，料理，美容など，典型的なトピックと，社会問題として女性問題を扱っていた。1980年代後半には，健康，美容，育児といった伝統的な分野も維持しつつ，同時に仕事やキャリア，性差別やハラスメントにまで範囲を広げた。しかしながら，伝統的な分野においても時代に合わせて，美容やフ

ァッションも自立した女性をイメージしたりしている。

「*The Star*」の「Section 2」は，月曜日から金曜日の毎日出されており，女性問題だけでなく，文化や芸術，環境問題やレジャー，エンターテイメントなど，さまざまなトピックを扱っている。

マレー語の「*Berita Harian*」は，3ページの「Wanita dan Keluarga（女性と家族）」セクションを日曜日を除く毎日，出している。セクションは，5人の記者が担当しており，現在その全員が女性である。このセクションは，セクション名が示すように，女性と家族の問題を扱うものだが，男性も父親として取り上げられる。新聞にとって政治やビジネスが重要記事であることにかわりはないが，「Wanita dan Keluarga」はそれなりの役割を果たしているのである。

マレー語の「*Utusan Malaysia*」も，女性欄をもっており，女性読者の人気もあり，購読者数の維持のためにも役立っているとしている。「*Utusan Melayu*」は，ジャウィ表記（マレー語のアラビア語の表記）でもあり，発行部数は少なく，相対的に読者の年齢層も高く，保守的といわれる。同紙は，女性問題についての記事もよく書く有名な女性の記者もいたが，数年前にその記者も辞めたために，女性問題の記事も減ったという。

現在，マレーシアの新聞の女性欄の担当記者の多くは女性である。このこと自体は，いまのマスコミ状況からも，やむをえないことでもあるが，女性であるというだけで女性の問題を公平に見られるということではなく，女性の記者も男性の記者も，ジェンダー・バイアスを避ける視点を持つことが基本である。そして，男性スタッフも含めて，女性欄で扱うべきさまざまな問題の議論と，それをふまえた紙面づくりを，社会的な視点をもちつつ，進めていくべきであろう。

（4） 女性の活動に関する新聞報道

マス・メディアで女性が取り上げられるときは，男性の場合と異るように扱われることが多い。とくに，何の分野でも，女性であることだけで成功や実績が取り上げられて，男性だったら簡単なことであるかのような印象も与える。さらには，女性の成功や実績については，「初めての女性」とか「女性としては」といった表現がよく付いており，ほかに評価できる点がないかのようである。男性へのインタヴューであれば，その男性のキャリアやその実績自体について聞かれるであろうが，女性の場合は，家族やプライヴェートな私生活についても聞かれることになる。そうした記事では，その人が何をしたかということだけでなく，主婦や母親としての

生活の紹介，仕事と家庭の両立などにふれることも多い。しかし，それが男性であったら，その人の料理の腕や父親としての側面などは記事にされないだろう。

新聞やほかのメディアでも，報道の主要な関心・対象は政治や経済・ビジネスであり，そうした分野は社会で男性が独占している。他方，福祉，介護，地域，家庭，家事，妊娠・出産，育児といった分野は，報道では二次的なものと見られているが，社会でそうした分野にはたくさんの女性が関わっている。どの分野が大切で，どの分野が大切でないかといった議論はともかく，報道における取り上げ方の重要度はジェンダーの政治学，すなわち男性によって規定されている。実際に，戦争，災害，犯罪，政治，経済・ビジネスといった重大ニュースは，女性にとってよりも男性にとって利害関係があり，関心も高いトピックでもある。

今日，社会の各方面での女性の活躍もあり，マレーシアの新聞で女性が取り上げられることは珍しいことではなくなった。そして，女性に関連しているからといっていつでも何でも女性欄で扱われるということもなくなった。マレーシアの内閣には三人の女性の大臣がいることもあり，政治欄ではよく彼女らの活躍が写真入りで取り上げられている。

1990年代には，MIDA（工業開発省）の大臣を務め，現在はMITI（国際貿易産業省）の大臣である，ラフィダ・アジズ（Rafidah Aziz）氏は経済面でよく登場しているが，それは彼女が女性であるからではなく，彼女の大臣としての仕事や扱う仕事の事柄で取り上げられたものである。また2001年には，女性問題や家族の問題を扱う新しい省Kementerian Pembangunan Wanita dan Keluarga（女性・家族開発省）が設立され，大臣として任命されたシャリザ（Sharizat）氏が同省の設立や関連の話題でよく取り上げられた。こうした女性の三閣僚の活躍を例外とすると，ほかの女性の政治家の活躍はあまり取り上げられていない。

経済・ビジネス欄では，女性の登場は少ない。これは，マレーシアの財界や経済・ビジネスはほかの国と同様に男性がほぼ独占しており，女性の活躍が少ないためである。しかしながら，華語紙においては，女性の企業家が取り上げられていることもけっこうある。これは，華人の女性が中小企業なども含めて，ビジネスで活躍していることが反映している。

文化・芸術・芸能面では，女性もよく登場している。しかしながら，女性の扱われるのは，どちらかというと「ソフトな」分野である。

スポーツ面では女性もよく取り上げられており，大体，記事の数では半々ぐらいである。しかし，マレーシアで一番人気のスポーツはサッカーであり，それはいう

表3　女性問題を扱った記事数（テーマ別・新聞別），2001年1−8月

テーマ	月	Utusan Malaysia	Berita Harian	New Straits Times	The Star	Sun	計
人口	1月	0	0	1	1	0	2
	2月	0	0	0	0	0	0
	3月	0	0	0	0	0	0
	4月	0	0	1	2	0	3
	5月	0	0	1	0	0	1
	6月	0	0	0	0	0	0
	7月	0	0	0	0	0	0
	8月	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	3	3	0	6
家族	1月	1	5	2	0	0	8
	2月	2	7	0	0	0	9
	3月	1	4	2	1	0	8
	4月	1	2	3	6	0	12
	5月	6	10	13	13	1	43
	6月	4	6	2	0	3	15
	7月	1	5	4	1	0	11
	8月	4	6	2	3	1	16
	小計	20	45	28	24	5	122
売買春	1月	5	4	3	1	0	13
	2月	1	6	0	0	0	7
	3月	1	0	1	2	0	4
	4月	1	3	3	1	0	8
	5月	5	8	3	3	0	19
	6月	2	2	1	4	1	10
	7月	2	6	2	3	2	15
	8月	1	1	0	0	0	2
	小計	18	30	13	14	3	78
結婚，ポリガミー，離婚	1月	5	6	1	0	0	12
	2月	1	1	1	1	0	4
	3月	1	2	0	0	0	3
	4月	3	4	0	0	0	7
	5月	3	1	2	0	0	6
	6月	5	1	3	4	0	13
	7月	13	10	4	2	1	30
	8月	1	2	1	0	0	4
	小計	32	27	12	7	1	79
強姦，セクシュアル・ハラスメント	1月	1	1	1	1	0	4
	2月	9	8	0	3	0	20
	3月	21	9	6	6	0	42
	4月	12	7	6	6	0	31
	5月	5	11	6	12	2	36
	6月	6	7	3	0	2	18
	7月	19	30	10	12	10	81
	8月	2	0	1	0	2	5
	小計	75	73	33	40	16	237

表3　女性問題を扱った記事数（テーマ別・新聞別），2001年1−8月（続き）

テーマ	月	Utusan Malaysia	Berita Harian	New Straits Times	The Star	Sun	計
セミナー・会議	1月	3	1	0	1	0	5
	2月	1	6	2	1	0	10
	3月	7	6	7	2	0	22
	4月	1	2	2	2	0	7
	5月	6	2	3	2	0	13
	6月	1	1	0	3	0	5
	7月	2	1	1	0	0	4
	8月	0	1	1	0	0	2
	小計	21	20	16	11	0	68
主婦	1月	3	4	0	0	0	7
	2月	3	6	1	2	0	12
	3月	4	4	0	1	0	9
	4月	2	3	3	0	0	8
	5月	8	6	7	4	0	25
	6月	1	2	1	0	0	4
	7月	0	0	0	0	0	0
	8月	0	0	0	0	0	0
	小計	21	25	12	7	0	65
法律・DV法	1月	1	1	7	3	0	12
	2月	6	5	11	3	0	25
	3月	0	2	7	1	0	10
	4月	2	4	1	0	0	7
	5月	4	4	3	1	2	14
	6月	3	3	3	4	1	14
	7月	0	0	0	0	0	0
	8月	0	0	0	0	0	0
	小計	16	19	32	12	3	82
宗教	1月	0	0	0	0	0	0
	2月	1	2	2	0	0	5
	3月	0	4	0	0	0	4
	4月	2	8	0	0	0	10
	5月	1	2	0	0	0	3
	6月	2	3	0	1	0	6
	7月	0	0	0	0	0	0
	8月	1	1	0	0	0	2
	小計	7	20	2	1	0	30
女性・ジェンダー	1月	1	2	1	0	0	4
	2月	2	6	5	3	0	16
	3月	6	9	14	10	0	39
	4月	0	1	2	0	0	3
	5月	3	3	8	5	2	21
	6月	5	6	2	2	1	16
	7月	0	0	1	0	0	1
	8月	0	0	0	0	0	0
	小計	17	27	33	20	3	100

表3　女性問題を扱った記事数（テーマ別・新聞別），2001年1−8月（続き）

テーマ	月	Utusan Malaysia	Berita Harian	New Straits Times	The Star	Sun	計
HAWA・女性庁	1月	8	8	5	2	0	23
	2月	4	6	2	3	0	15
	3月	0	3	2	1	0	6
	4月	4	2	0	1	0	7
	5月	3	8	2	0	0	13
	6月	1	2	0	0	1	4
	7月	0	0	0	0	0	0
	8月	0	0	0	0	0	0
	小計	20	29	11	7	1	68

までもなく男性一色である（例外的に女性サッカーも登場するが）。そして，体操などで取り上げられるのは女性選手が中心である。女性のスポーツ選手の取り上げられ方は，試合の写真でも，短パン姿などのセクシーな写真が多く，体操選手はレオタード姿，テニス選手は短いスコート姿である。

マレーシアの主要5新聞について，2001年1−8月に女性について書かれた記事でおもなものを取り上げて分析を行った。今回，分析の対象としている記事は，ジェンダーや女性に関連した11のトピックで，合計935の記事である。一般的な記事は除いているために，記事の数だけでみるのは公平ではないかもしれないが，新聞における女性関連の記事の全体の傾向と社会問題となったトピックはよく表れていた。対象とした主要5紙とは，マレー語の「*Berita Harian*」と「*Utusan Malaysia*」の2紙，英語紙の「New Straits Times」，「The Star」，「Sun」の3紙である。

取り上げた935の記事の分類と掲載された新聞の内訳を示したものが表3である。ジェンダー・女性問題を扱った935の記事の6割は，マレー紙のものである。マレー紙は英語紙に比べて保守的といわれるだけに，マレー紙2紙で全体の6割を占めることは予想外であった。しかしながら，マレー紙には「女性と家族」といった欄があり，ファッションや美容，料理などのソフトな話題とともに，定期的に女性問題を取り上げているのである。「*Berita Harian*」紙において対象の8ヵ月の間に家族についての記事は45あり，これはほかの主要紙に比べても2倍以上になっている。これは同紙に「Wanita dan Keluarga」欄があるためであろう。

「結婚，一夫多妻制，離婚」，「強姦，セクシュアル・ハラスメント」，「セミナー，ワークショップ，会議」の記事については，「*Utusan Malaysia*」の方が「*Berita Harian*」より多く載せている。またこれらのテーマについての記事の頻度は，マ

レー紙の方が英語紙の二倍以上になっている。これは「結婚，一夫多妻制，離婚」といった議論はマレー系の方にとくに重要なためであろう。

シングル•マザーの問題もマレー紙の方でより重要視されている。他方，「法律，ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）法」については，「*New Straits Times*」紙が他の新聞に比べて多く取り上げている。これは同紙がそのテーマについて特集を組んだり，重要と捉えているためである。

月ごとに，記事をテーマ別にみるとその時々に話題になったトピックがわかる。2001年1月には，HAWA（女性庁）について23の記事があったが，これは女性家族省の設立の前後にさまざまな記事が載ったためである。2月には，「法律，DV法」が話題であった。また，とくに「*New Straits Times*」での記事が多かった。3月には，大きな会議があったために「ジェンダーについてのセミナーや会議」の記事が増えており，その出席者のインタヴューが載っている。4月には，「*Berita Harian*」紙に「宗教」について8つの記事が載り，「*Utusan Malaysia*」紙に「強姦，セクシュアル•ハラスメント」について12の記事が載っている。

2001年5月は，5月第二日曜日が「母の日」であるために，ほとんどの記事が母親の話題であり，家族（43記事）やシングルマザー（25記事）の記事が多かった。その年の母の日には，シングルマザーが政府の主催するパーティに招待されたため，すべての新聞がそのことを記事で取り上げていた。

2001年6月は，「強姦，セクシュアル・ハラスメント」の記事が非常に多く81記事，それに「結婚，一夫多妻制，離婚」が30記事となっている。これは，政府がセクシュアル・ハラスメントに反対するキャンペーンを行ったためである。

(5) 女性に関する記事の具体的ケース[5)]

ここでは，マレーシアの新聞から，ジェンダーに配慮した良い例と悪い例という視点から，女性に関する記事の具体的なケースを取り上げる。以下のケースは，マレーシアの全国女性団体協議会（the National Council of Women's Organisations）のメディア委員会（the Media Commission）が2000年3月23−24日にクアラ・ルンプルで開催した「印刷メディアにおける女性および女性問題の効果的報道」についてのワークショップでの資料と議論による。

（a） 女性と経営についての良い報道のケース

（i） "Misi Utama Zaitoon untuk Belia" (*Mingguan Malaysia*, 27 February

2000）

シングルマザーが企業のマネージャーとしても頑張っているというニュース。

（ii） “Anchor Personality－‘Seawift Branch Manager Hated Sitting In Ivory Tower’” (*The Star*, 20 February 2000)

Seawift 社の女性の支店長が男性の同僚と同じように認められている。

（iii） “Malaysian Woman Scores a First in Australia” (*Sun*, 25 February 1999)

オーストラリアの上場の資産信託会社の社長となったマレーシア人の女性として初の快挙。これは，記事の中心は女性だからというのではなく，その人の努力に焦点を当てている点が良い。

（b） ビジネスと女性についての良い報道のケース

（i） “More Women Entrepreneurs Grant from MTDC” (*Business Times*, 3 February 2000)

女性企業家への特別支援計画によって，女性が所有する 3 社が総計 4100 万リンギッの助成金を受けることが決まった。この記事は，女性の起業家もしくは起業家志望者が努力できるような成功のモデルを示し，助成金へ応募の仕方の情報を提供している。

（ii） “Women’s Issues on the Agenda” (*New Straits Times*, 24 May 1999)

女性問題について，より真剣に取り組むべきという記事。

（iii） “Oh, so Pat” (*New Straits Times*, 24 February 2000)

Pat Liew という女性が，ブリティッシュ・インディアのブランドで，ビジネスの成功を遂げた。知識とともに，一生懸命働き，仕事を進めていく姿勢など，ほかの女性に対しても，ビジネスで成功するモデルとしての記事となっている。

（iv） “A Note About Gender Imbalance” (*The Star*, 22 February 2000)

女性のコンピュータ使用者に関する女性の感想。コンピュータ技術において女性が男性に遅れているという記事の結論は「悪いケース」にも見えるが，女性が男性に追い付くように激励するムチともなるかもしれない。記事は，女性が技術嫌いを克服するように励ましている。

（c） ビジネスと女性についての悪い報道のケース

（i） “Dobi Softouch Lebih Harum” (*Harian Metro*, 23 February 2000)

新しい家庭用品の発売の記事。記事には，商品を使っている女性の写真を使っており，洗濯は女性がするものといった典型的なイメージを強調するものである。

（ii） “Dua Usahawan Wanita Terima Geran MTDC” (*Utusan Malaysia*, 13 November 1999)

助成金を受ける2人の女性企業家というタイトルの記事。そのタイトルにも関わらず，記事は，助成金を受ける企業と関係した男性の名前を載せている。こうした記事は助成金を受けた女性の名前と助成金の授与について書くべきであろう。

（d） 女性問題についての良い報道のケース

（i） "Seek Help Immediately if You're Beaten" (*The Star*, 22 January 2000)

家庭内暴力で夫に叩かれることに泣き寝入りしないようにという女性への呼びかけ。メッセージは，女性だけに向けられたものではなく，男性にも向けられている。記事は家庭内暴力に反対するはっきりとした主張であり，女性の政治的指導者の言葉も紹介している。

（ii） "Women Power: Thai Advertising Industry"

広告業界で成功した女性へのインタヴュー記事であるが，同業界における女性のパワーをあらわしている。記事のスタイルは，メッセージ臭くなく，物語風で，読みやすい。

（iii） "Rajmah Duta Wanita Pertama ke Perancis" (*Berita Harian*, 2 July 1995)

Rajmah 博士が初の女性駐仏大使に任命。彼女は，その人柄と能力で評価され，その優秀さで任命されている。記事は客観的である。

（e） 女性問題についての悪い報道のケース

（i） "Penderaan Ala Jahiliah" (*Utusan Malaysia*, 15 February 2000)

家政婦虐待についての記事であるが，記事が感情的である。事件などの報道は，記者の個人的意見や感情でなく，常に事実を客観的に伝えるべきである。またタイトルの 'jahiliah' という語は，まだ十分に取り調べが進んでいない裁判について判断を下しており，適切でない。実際，この記事は事実関係よりも，警察による説明を使って記者の主張を述べている。一方的で，妻側からの視点がない。家政婦は女性からだけでなく，男性（夫，息子など）からも虐待をうけることもあるのである。しかし，記事はその妻だけを責めている。

（ii） "Pengorbanan Mary...Demi Anak-Anak Angkat" (unknown source)

女性が家族のために犠牲となるという記事。しかしながら，Mary は不当な扱いを受けている。写真は，Mary 本人ではなく，その末娘の写真であり，彼女が本人かのように読者に勘違いさせる。記事で，Mary をきちんと見せて，彼女の功績を示すべきである。

（f） 女性とエンターテインメントについての報道の良いケース

（i） "Jeslina Tidak Mahu Tiru Gaya Orang" (unknown source)

新人の女性歌手 Jeslina が新しい番組の司会になったという記事。この歌手を紹介する中で，記事は彼女の経歴，音楽，才能について積極的に評価している。通常の紹介記事というより，認められようとする彼女の努力が強調されている。しかし，写真は歌というよりは見かけを強調しているものである。

（ii） “Amy Mastura Suka Berkongsi Masalah”（unknown source）

Amy Mastura の人柄について。記事は，Amy のキャリアの目標を探るものであり，彼女の大事にするものをじっくりと書いている。そのアーティストについて思いやりのある人として彼女のファンに好感が持てるようになっている。

（g） 男性アーティストと女性アーティストで報道の違うケース

（i） “Awie Kembali dengan Rentap”（unknown source）

男性のアーティスト Awie の最新アルバム「*Rentap*」のプロモーションについて。これはおもにアルバムのプロモーションについて書かれている。アルバムはその内容で評価されるだろうが，アルバムの質を確保しようという努力が書かれており，ファンの共感をよぶ内容である。

（ii） “Ning Baizura Semakin Seksi”（unknown source）

女性歌手 Ning Baizura が，TV 番組「*Muzik-Muzik*」の司会としてカムバックするという記事。彼女は良い司会で，番組でも好印象であったが，記事では彼女の性格やセクシーさが描かれている。また彼女の過去の過ちを持ち出して，才能よりも悪い面を詳しく述べている。

（6） 新聞における女性の取り上げ方の問題

重要な女性問題はよくマス・メディアで取り上げられるが，単に記事に書かれるだけでなく，女性団体や NGOs との連携で実際の改革に役立つこともある。

ドメスティック・ヴァイオレンス（家庭内暴力）についての議論は，ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）法への道を切り開いた。メディアと NGOs は 9 年間，協力しあい，その結果，1994 年に DV 法が議会を通過，制定された。それにもかかわらず，当局は同法の適用を微妙な問題とみて施行が先延ばしされ，2 年後の 1996 年の世界女性の日に女性によるデモが行われ，メディアはそれを支援した。そして，こうした要求の 3 ヵ月後に，政府は同法の施行を宣言した（Aishah Ali, 1997）。また，セクシュアル・ハラスメントに関する議論も，セクシュアル・ハラスメントに反対する行動規則（Code）の制定につながった。

現在，長年にわたっているのはイスラムのシャリア法についての論争である。とくに指摘されているのは，シャリア裁判所には男性の裁判官しかいないために，結

婚，離婚，親権などの裁判では偏見をともなうかもしれないという問題である。これは，宗教的，法的な含意があるだけに，見解の解釈においてムスリムの女性にとって不利になることが多いとして批判されている。そうした女性のケースがメディアで取り上げられた後，首相や副首相も関心を寄せるようになった。そして，各紙の一面で，公正であるように裁判官に対して求める首相の言葉が報じられた。副首相は，全国女性の日のスピーチで，そのことを重ねて強調した（Aishah Ali, 1997)。女性の呼びかけや働きかけで，変化が進んでいくことは望ましい。

マレー語紙は一般に保守的といわれるが，シャリア法の問題については議論が活発である。事実，マレー語紙がこの議論の先頭に立っている。これは，この問題がマレー系女性にとって非常に切実だからであろう。

マス・メディアは，女性を擁護もするが，批判することもある。

1970年代および1980年代に，女性工場労働者を批判する記事がマスコミで頻繁に取り上げられた。女性工場労働者に対して，「*Minah Letrik*」，「*Minah Karan*」，「*Kaki Enjoy*」「*Jolli Kaki*」，「*Jolli Duit*」，「*Kaki Jalan*」，「*Kaki Disco*」など，いずれも遊び好きで男性とも気軽に付き合うといったイメージを当てはめて，その問題を記事にした。

1970年代以降，マレーシアの工業化の過程で，多くの女性が工場で雇用された。工場で雇用された女性は，その多くが18－24歳と若く，農村（カンポン）出身の女性が多かった[6)]。彼女たちにとって，農村を離れて，近代的な工場で働くということは，まったく新しい経験であった。親元や故郷を離れて，寮やアパートで暮らしながら，自分の収入もあり，友人と町に出て歩いたり，男性との交流もある。半そでやスカートの制服を着ることや男性と同じ職場で働くこと，ショッピング・コンプレックスや映画館やディスコティークに出歩くなどの行動は，そもそも，伝統的なイスラムの規範から外れるものであり，文化的な摩擦が生じてきた。また軽はずみな行動に出る女性もいた。こうした女性の行動には，社会から厳しい視線が向けられ，マス・メディアも，だらしのない西洋かぶれの生活スタイルとして批判し，社会問題化し，政治家や宗教指導者も風紀を乱すものとして非難した。

マス・メディアでは，そうした女性工場労働者が男性と気軽に付き合い，はては売春をするといった記事を載せ，一部の少数のケースを根拠もなく全員のことのように書いていった。しかし，これは女性に対する典型的な偏見であり，とくに女性工場労働者に対する偏見は，学歴の低さや社会的地位の低さなどを背景としている。

さらに，1970年代には工場における「集団ヒステリー」についてもマス・メデ

ィアで取り上げられた。工場などで集団ヒステリーがひとたび起きると，工場中に広がり，生産ラインは停止する。再開には，数時間，数日，数週間かかる。集団ヒステリーの原因は幽霊や悪霊のせいだといわれ，ボモ（シャーマン）を呼んで厄払いをするのが通例である。農村育ちの若い女性が，閉鎖された無機的な近代的な工場で長時間，仕事をする。そして，単純作業をただひらすら繰り返し，ノルマやターゲットのプレッシャーもあり，大きなストレスがかかっている。そうした状況にもかかわらず，ストレスが原因でヒステリーの症状が起きたとはいわれず，女性は神経質でヒステリー気質だといったことが強調されるのである[7]。

1990年後半には，「Bohsia」として10代の非行がメディアで注目され，中高生や中退児童が小遣い稼ぎで売春をするケースなどが，センセーショナルにメディアで取り上げられた。彼女たちは，従来の不良や問題児，貧困層や家庭に問題があるような少女とは限らず，いわゆる普通の家庭の少女もおり，見知らぬ男性に車に乗せてもらったり，食事やディスコに連れて行ってもらったり，売春をしたりすることが指摘され，メディアが取り上げて社会問題化した[8]。確かに，そうしたケースも少しはあり，目新しい現象でもあったが，メディアの取り上げ方は全体として誇張されたもので，中高生の全員がそういったことをするかのような印象を与えた。

1990年代には，外国人家政婦の問題がメディアで注目された。1989年にマレーシア政府が正規に外国人家政婦の雇用登録を認めて以来，外国人家政婦の雇用は著しく増加した[9]。外国人労働者については，「不法」滞在・「不法」就労外国人をめぐる社会問題や犯罪行為などが記事でよく取り上げられるが，家政婦に関連する事件もよくメディアで取り上げられる。とくに雇用者を殺害した事件などでは，被害者の血みどろの写真などが紙面に載り，加害者の家政婦は悪の化身のような印象を与えるのである。全般に記事は雇用者側がかかえる問題については詳細に書くが，家政婦側がかかえる問題についてはまったく無視する傾向がある。そのため，外国人家政婦について，「神話」，すなわち根拠のない社会通念やイメージが生み出され，外国人家政婦というと「すぐに逃げ出す」，「怠けるので見ていないとならない」，「家の中の物や金を盗む」，「夫を盗む」，「子どもを虐待する」，「男性関係にだらしない」，「友達にすぐに悪い影響を受ける」などといわれるのである。

マレーシアの女性問題NGOであるWAO（The Women's Aid Organisation）は，家政婦についての新聞記事をチェックして，そうしたイメージが社会的に蔓延していることを指摘し，同時に雇用者による家政婦（マレーシア人・外国人）虐待のケースをマス・コミに公表している（WAO, 2000）。雇用者による家政婦の虐待

がマス・コミで連日のように取り上げられるようになったのは，こうしたNGOとマス・メディアとの連携があったことも大きい。

おわりに

マス・メディアは，社会が変化するにしたがって，変わってきた。現在マレーシアで，いまだに性差別や偏見は残っているものの，ジェンダーや女性の問題に関して，議論は自由にできるようになっている。社会にとって，マス・メディアにジェンダー・バイアスはあってはならない。マス・メディアによって，社会の価値や文化におけるジェンダー・バイアスが生み出され，増長される場合もあるし，改善される場合もあるからである。

たとえば，女性のモデルが，きれいなだけの女性として描かれる広告は女性の商品化や女性の身体の商品化，搾取である。それが芸術だという人もいるだろうが，そうならば，同じ設定で父親や祖父母，子ども，障害者といった人物が描かれることも可能なはずである。そうした描き方の方が，異なったメッセージや文化的価値を伝えることができるはずである。メディアにおける表現として，ほかにも同じようなケースが多数ある。

したがって，女性とジェンダーについてのメディアの報道に関しては，量だけでなく，その質を見るべきである。そして，それも女性と男性で基準が違うダブル・スタンダードや，ステレオタイプ化されたものでないか注意しなくてはならない。メディアは，差別や偏見を生み出したり，再生産するものであってはならない。むしろ，メディアにおいて女性のマージナル化や疎外，女性の権利の侵害などを退けることによって，平等や公正を推し進めるべきなのである。メディアは世論を左右する力をもつため，メディアはその内部であろうと外部からであろうと，監視する必要がある。そして，メディアがその内部でチェックするためには，スタッフ・レヴェルであろうとマネージメント・レヴェルであろうとも，メディア教育やジェンダーを認識する研修プログラムが導入されるべきなのである。

社会において，メディアは重要な役割を果たしている。しかし，メディアが既存の社会をそのまま映しているのであれば，その社会をなぞって，社会における価値観をそのまま再生産することになる。そうすると，メディアは，社会を構造的に変えていくように働きかける機会を捨てていることになる。社会を積極的に変えていくには，現在の価値観や社会通念，意味の生産のプロセス，文化といったものを解釈し，選択していくことが求められる。

文化は，人々の生活や習慣，思想・観念の統合体である。それは，価値や意味を創造し，ジェンダーの役割を規定する。メディアは，意味を生み出し，また再生産するプロセスにおいて，社会に対してよき価値や意味を授ける重要な役割を果たしているのである。

注

1) 当論文は，吉村真子と相良剛による1997－2003年の共同研究の成果の一部であり，1998－2001年にマレーシアでジャーナリストへの面接調査，資料収集などの共同調査をおこない，その分析結果をまとめ，研究論文として共同して執筆したものである。

2) 吉村真子は法政大学社会学部教授であり，マレーシアの経済発展と社会について研究を進めている。相良剛（出版社勤務）は，ロンドン大学LSEにて修士号（開発研究）を取得し，アジアにおける開発とマス・メディアについて研究を進めている。

3) このテレビCMは，マレーシアにおけるエスニック関係からしてきわめて興味深い。すなわち，この父子は，マレーシアのマジョリティであるマレー系ではなく，つぎに多い華人でもなく，むしろ少数派のインド系である。マレーシアにおいて，独立（ムルデカ）記念日は，どちらかというとマレー系にとって重要な記念日と見なされている。マレー系を登場させるとマレー系のナショナリズム的情景になり，華人に反発され，華人だと逆の反発を招く。そのため，インド系ならば中立的で，エスニック的な意味合いを感じさせることなく描けるのである。

4) ハリス・イスカンダーは，マレーシアでは有名なマレー系のスタンダップ・コメディアンであり，ハリウッド映画「アンナと国王」にも出演して，話題になった。映画「アンナと国王」（ジョディ・フォスター，チョウ・ユンファ主演）は，ハリウッド映画「王様と私」（デボラ・カー，ユル・ブリナー主演）のリメイクで，タイの国王と西洋人家庭教師の交流を中心にタイを舞台としているが，タイの描き方が差別的としてタイ国内での撮影が許可されず，マレーシアのイポーで撮影された。

5) ここにおける新聞記事の対象は，マレーシアのthe Media Commission, National Council of Women's Organisations Malaysia主催のワークショップ“Effective Reporting on Women and Women's Issues in the Print Media”（Kuala Lumpur, 23-24 March 2000）の資料と議論による。

6) 彼女らは，一般に中学・高校卒業後，おもに友達や家族などの口コミで工場での職を得る。農村出身の彼女らにとって近代的な工場で労働することは新たな異質な体験であり，離職率も高く，数日や数週間で辞めるケースもある（吉村1998，第4章）。

7) Fuentes and Ehrenreich (1983)は，「集団ヒステリー」について，米国の中西部の女性工場労働者にも起こったとして，病的な「ヒステリー」といった表現は女性差別的

であり，むしろ，そうした状況を生み出すような劣悪な労働環境や労働条件に目をむけるべきとしている。

8) マレーシアは，イスラム教の性格も強い国なので一概に言えないが，「いわゆる普通の子」が売春をするケースやメディアの取り上げ方など，日本の援助交際やメディアの取り上げ方と類似している点もある。

9) マレーシアで登録している家政婦は11.2万人いるが，もっとも多いのはインドネシア人（71%）であり，ついでフィリピン人（25%）となっている（吉村1998，図1−8，51頁）。

*　　*

英文目次と要約　English Contents and Abstract

Mass Media and the Production of Meanings: Gender in Malaysia

By YOSHIMURA Mako and SAGARA Go

CONTENT

Introduction
1 Culture, Mass Media and the Production of Meanings
2 Women and Images of Gender in the Media
（1） Women in Malaysia
（2） Images of Gender in the Media: The Malaysian Case
（a） TV
（b） Films
（c） Magazines
（d） Advertisements
3 Newspapers and Gender in Malaysia
（1） Newspapers in Malaysia
（2） Participation of Women and the Management in the Press
（3） Women's Sections
（4） Newspaper Coverage of Women's Activities
（5） Cases of Effective Reporting on Women
（6） Treatment of Women Issues in the Newspapers
Conclusion
Footnotes
References

ABSTRACT

This paper discusses the Mass Media and Gender in Malaysia.

While Allen and Rush (1989), Brown (1990), Carter and Spitzack (1989), Daly (1984), Gamman and Marshmount (1989) and Pribram (1988) have delved deeply into communications in the west and propounded various feminist theories for their observations, not much has been done on the subject in Malaysia.

The media play a central ideological role in that their practices and products are both a source and confirmation of the structural inequality of women in society. Being subordinate to men is a role generally accepted by women as a *fait accompli* in life (possibly, as Gramsci wrote in *Prison Notebooks*, as a 'subordinate group'). In the re-production of meanings in society, we cannot ignore the role of the media. Indeed, their role should be discussed with that of culture in the 'process of production of meanings' (Gallagher, 1981).

Malaysia is a developing country that has experienced rapid economic growth since the 1980's. Although the country is majority Muslim, women are encouraged to work, in contrast to many other Muslim countries which prefer their women at home. In Malaysia, there are female ministers who are often in the news. In this society, it is important to re-evaluate the mass media and its role with respect to gender.

The paper discusses the role of the Malaysian mass media and the images of gender in them. It briefly deals with the cases of TV, Films, Magazines, Advertisements, etc. And it examines the newspapers and gender in Malaysia, newspapers in Malaysia, participation of women (as journalists, newspaper staff, etc.) and management, 'Women's Sections' in newspapers, newspaper coverage of women's activities and images of women, cases of effective reporting of women, and the treatment of gender in the newspapers.

The discussion includes the creation of gender images in 'the production of messages', as well as the role of the mass media in gender issues. It also analyses the results of a content analysis of newspaper articles in 1999-2001, including interviews with journalists mainly from the newspapers[10].

*　　*

謝辞　Acknowledgements

筆者は，マレーシアにおける調査・研究にあたり，下記のジャーナリスト，研究者，友人たち，また研究機関の協力と支援を得た。ここに深く感謝したい。

The authors would like to express their gratitude to the following persons and institutes for their warm-hearted support and corporation during their research in Malaysia:

Ms. Aishah Ali, New Straits Times; Mr. Azman Ujang, Pertubuhan Berita Nasional Malaysia (BERNAMA); Ms. Eu Hooi Khaw, New Straits Times; Mr. Foo Ah Hiang, Universiti Malaya; Ms. Geetha Govindasamy, Universiti Malaya; Dr. Hou Kok Chung, Universiti Malaya; Ms. Ivy N.Josiah, Women's Aid Organisation (WAO); Ms. Joceline Tan; Datuk Johan Jaaffar; Prof. Jomo K.S., Universiti Malaya; Ms. Lai Suat Yan, Universiti Malaya; Dr. Patricia Martinez, Universiti Malaya; Ms. Sheila, The Star; Ms. Saliha Hassan, Universiti Kebangsaan Malaysia; Dr. Shanti Thambiah, Universiti Malaya; Mr. Steven Gan, Malaysiakini; Ms. Sudandara S. Nathan, Universiti Malaya; Ms. Zamzam Omar, Berita Harian (in alphabetical order), etc.

Faculty of Economics and Administration, Universiti Malaya; Universiti Malaya Library; HAWA Library, etc.

参考文献

1 新聞 Newspaper

A) 英語新聞 English-language newspapers

Business Times

New Straits Times

The Malay Mails

The Star

The Sun

B) マレーシア（ムラユ）語新聞 Bahasa Malaysia (Malay)-language newspaper

Berita Harian

Harian Metro

Utusan Malaysia

Utusan Melayu

C) 華語新聞 Chinese-language newspaper

China Press

Guan Ming Daily

Kwong Wah Yit Poh & Penang Sin Poe

Nanyang Siang Pau

Sin Chew Jit Poh

D） タミル語新聞 Tamil-language newspaper

Malaysia Nanban

Tamil Nesan

Thina Murasu

2 資料

Materials at the Workshop on Effective Reporting on Women and Women's Issues in the Print Media. Organised by Media Commission, National Council of Women's Organisations Malaysia, Kuala Lumpur, 23-24 March 2000.

3 研究論文など

Ackerman, S. E. 1980. Cultural Process in Malaysian Industrialisation. Ph. D. thesis, UC San Diego.

Adnan Hashim. 1994. *Advertising in Malaysia*. Petaling Jaya : Pelanduk Publications.

Aishah Ali. 1997. Changing Media Portrayal of Women : How Women Editors Can Play a Role. Paper presented at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Asiah Sarji and Faridah Ibrahim. 1997. Research Trends on Women and the Media in Malaysia : A Preliminary Investigation. Paper presented at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Brown, Mary Ellen, ed. 1990. *Television and Women's Culture : The Politics of the Popular*. London : Sage.

Carter, Cynthia, Gill Branston and Stuart Allan. 1998. Setting New(s) Agendas : An Introduction. In *News, Gender and Power*,. C.Carter et al. (eds.), 1-9, London : Routledge.

Carter, Cynthia, Gill Branston and Stuart Allan eds. 1998. *News, Gender and Power*. London : Routledge.

Carter, Kathryn and Carole Spitzack, eds. 1989. *Doing Research on Women's Communication : Perspectives on Theory and Method*. Norwood, N. J. : Ablex.

Ceulemans, Mieke and Guido Fauconnier. 1979. *Mass Media : The Image, Role, and Social Conditions of Women : A Collection and Analysis of Research Materials*. Paris : UNESCO.

Consumers' Association of Penang. 1982. *Abuse of Women in the Media*. Penang :

Consumers' Association of Penang.

Consumers' Association of Penang. 1986. *Selling Dreams : How Advertising Misleads Us*. Penang : Consumers' Association of Penang.

Daly, Mary. 1984. *Pure Lust : Elemental Feminist Philosophy*. Boston : Beacon Press.

Elson, D. ad R.Pearson. 1986. Nimble Fingers Make Cheap Workers. In *Feminist Review* (October).

Faridah Ibrahim. 1990. Wanitawan dalam Pengurusan Bilik Berita : Matlamat dan Pencapaian. *Jurnal Komunikasi*, 6 : 43-50.

Faridah Ibrahim dan Rahmah Hashim. 1996. Images of Women and Human Rights: A Content Analysis of Malaysian Media during the Fourth World Conference on Women in Beijing. Paper presented at the IAMCR Conference, Sydney, 19-22 August 1996.

Fuentes, A. and B. Ehrenreich. 1983. *Women in the Global Factory*. Boston.

Francis Loh Kok Wah and Mustafa K. Anuar, 1996. The Press in the Early 1990's : Corporatisation, Technological Innovation and the Middle Class. In *Malaysia : Critical Perspectives*. Mohammad Ikmal Said and Zahid Emby (eds.), Kuala Lumpur : Persatuan Sains Social Malaysia.

Gallagher, Margaret. 1981. *Unequal Opportunities : The Case of Women and the Media*. Paris : UNESCO.

Gallagher, M. 1990. 1995. *An Unfinished Story : Gender Patterns in Media* Employment. Paris : UNESCO Reports on Mass Communication, 110.

Gamman, Lorraine and Margaret Marshmount. 1989. *The Female Gaze*. Seattle : Comet Press.

Gramsci, Antonio. 1971. *Selections from Prison Notebooks*. Eds and trans. Quintin Hoare and Geoffrey Nowell Smith. New York : International Publishers

Grossman, R. 1979. Women's Place in the Integral Circuit. In *Special Joint Issue of Southeast Asian Chronicl:66 and Pacific Research : 9* (5-6).

Hancock, Mary. 1983. Transnational Production and Women Workers. In *One Way Ticket : Migration and Female Labour*.. A. Phizacklea (ed.). London.

Heuvel, J. V. and E. E. Dennis. 1993. *The Upholding Lotus : East Asia's Changing Media*. New York : The Freedom Forum Media Studies Center.

Irene Fernandez. 1990. How the Media Treats Women. In *Media Watch : The Use and Abuse of the Malaysian Press*. Kua Kia Soong (ed.). Kuala Lumpur : The Resource & Research Centre, Selangor Chinese Assembly Hall : 129-141.

Kua Kia Soong ed. 1990. *Media Watch : The Use and Abuse of the Malaysian Press*.

Kuala Lumpur : The Resource & Research Centre, Selangor Chinese Assembly Hall.

Lim, Linda Y. C. 1978. Multinational Firms and Manufacturing for Export in Developing Countries : The Case of the Electronics Industry in Malaysia and Singapore. PhD Thesis, Ann Arbor : The University of Michigan.

————. 1989. Women and Multinationals (unpublished paper, March).

————. 1990. Women's Work in Export Factories. In *Persistent Inequalities*. I. Tinker (ed.). New York.

Lochead, J. 1988. Retrenchment in a Malaysian Free Trade Zone. In *Daughters in Industry*.. Heyzer (ed.). Kuala Lumpur : APDC.

Malaysia. 1991. *The Second Outline Perspective Plan 1991-2000*, Kuala Lumpur : Percetakan Nasional Malaysia Bhd.

————. 2001. *Eighth Malaysian Plan 2001-2005*, Kuala Lumpur : Percetakan Nasional Malaysia Bhd.

Mary Assunta Kolandai and Mohd Azmi Abdul Hamid. 1997. Women in the Media : Public Opinion and Activism. Paper presented at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Ministry of Finance Malaysia. *Economic Report, various issue*. Kuala Lumpur : Percetakan Nasional Malaysia Bhd.

Ng Poh Tip. 1997 Media Practice and Management. Paper presented at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Ong, Aihwa. 1983. Global Industries and Malay Peasants in Peninsular Malaysia. In *Women, Men and the International Division of Labour*. Nash (ed.). Albany : State University of New York Press.

————. 1987. *Spirits of Resistance and Capitalist Discipline : Factory Women in Malaysia*. Albany : State University of New York Press.

Press Guide : Press Information Guide Book, various issues. Kuala Lumpur : Whiteknight Communications.

Pribram, Deidre ed. 1988. *Female Spectators : Looking at Film and Television*. New York : Verso.

Rahmah Hashim dan Fuziah Kartini Hassan Basri. 1996. *Wanita dalam Organisasi Media Cetak*. Bangi : Universiti Kebangsaan Malaysia.

Rakow, Lana F. ed. 1992. *Women Making Meaning : New Feminist Directions in*

Communication. New York : Routledge.

Rush, Ramona R. and Donna Allen, eds. 1989. *Communications at the Crossroads : The Gender Gap Connection*. Norwood, N. J. : Ablex.

Samsudin A. Rahim et al. 1994. *Wanita dan Media Cetak*. Bangi : Universiti Kebangsaan Malaysia.

Siti Hasmah bte Haji Mohd Ali. 1997. Speech on Women and the Media at the International Seminar on Women in the Media : Challenges and Opportunities for Asian in the Next Millennium, Bangi, 12-14 November 1997.

Women's Aid Organisation (WAO). 2000. Foreign Domestic Worker Abuse in Malaysia : A Position Paper by WAO. WAO (unpublished).

吉村真子　1998.『マレーシアの経済発展と労働力構造：エスニシティ，ジェンダー，ナショナリティ』法政大学出版局。

Zainuddin Maidin. 2001. Wanita dan Media. Kertaskerja di Wanita dan Mashyarakat-K : Peranan, Sumbangan dan Cabaran. Cititel, Kuala Lumpur, 14 September 2001.